



会長 小井田和哉 青少年奉仕 石橋 信雄
副会長 村井 達 幹事 深澤 隆
クラブ奉仕 小林 幹夫 会計 渡辺 孝
会長エレクト 佐々木泰宏 会場監督 接待 一雄
職業奉仕 橋本八右衛門 直前会長 道尻 誠助
社会奉仕 妻神 和憲 副幹事 正部家光彦
国際奉仕 妻神 和憲 会計補佐 紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を!

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

11月 は ロータリー 財団 月間 です

第3203回例会

2021.10.27

会長要件 小井田和哉 会長



先週は久々の例会でしたが、今日からという方もいらっしゃるようです。皆さんにお会いできてひじょうに嬉しく思います。

今日は最近ひじょうに高くなっているなど思っているだろうガソリンの話を本業なのでさせていただきますと思います。

毎週水曜日に全国の平均価格が発表されます。最新で先週20日に発表された価格はレギュラーガソリン全国平均で164.6円と一時期に比べるとだいぶ高くなっています。今日この後に発表される価格はもう少し上がるかなと予想しています。なんでこんなに高くなっているか。

この間デーリー東北の記事にも見ましたが、需要がひじょうに伸びてきているというところになると思います。油の価格は需給のバランスで必要になると高くなり、物が足りないと高くなるということで決まってきます。

産油国がコロナ禍でいろんな工場や稼働していない中で減産していました。だいたいコ

ロナが少し落ち着いてきたということで、アメリカや中国で需要が増えてきている。だけど産油国で作っているOPEC（石油輸出国機構）やロシアなどがけっこうな量を産出しているため、ロシアを含めたOPECプラスという集まりで世界の原油をもう少し増産しようとか、まだいいんじゃないかというのを2か月おきくらいに決めています。

9月にだんだんと値段が上がってきているというところで減産していたものをちょっと緩めて、少し増やすんじゃないかという憶測がありましたが、OPECプラスでは現状維持という発表をしました。

それによって期待していたものが増産されないこともあって、値段がまた上がってきた。さすがに日本も含めた各国はこのままでは高すぎるということで、11月にOPECプラスの会合があるそうですが、日本も含めてちょっと増産のお願いをしていくことになっているようです。

以前であればアメリカでシェールオイルというものをたくさん作って、逆にちょっと原油が余り気味だった頃はすごく安くなっていましたが、もう一つ別の問題でカーボン

ニュートラルという石油をなるべく使わないようにしようという動きの中で、減産しているシェールオイルをもう1回作るかどうかという判断をアメリカでちょっと二の足を踏んで、メーカーも増産に動いていないというところで、今の原油不足、需要に追いついていなくてちょっと値段が上がっているというような状況が続いているようです。

ガソリンや原油だけでなく、天然ガスやプロパンガスもこれからもう少し上がってきて、今すごく高くなっていますが、この冬はエネルギーの値段がちょっと高いまま推移するかという予想になっています。決してわれわれ小売業者が高くしているわけではなく、わたし共が仕入れるところからもうすでに高いということでご理解いただければと思います。

幹事報告 深澤 隆 幹事



○先週、築館さんから地区大会の参加報告がありました。地区事務所より、「地区大会のお礼状」が届いております。

○むつ、下北豪雨に対する寄付に対するお礼も届いています。

○出席委員会より、来月の出欠の予定が回っていると思いますが、11月24日にガバナー公式訪問を予定しています。基本的に感染対策をしっかりとりながら、できる限りハイブリッド開催をいたしますが、その時はお集まりいただく方向で考えています。

一方、理事役員、各委員会委員長、入会2年以内の新会員の方は公式訪問の前にクラブ協議会を開催します。例年より時間を短縮してコンパクトな形で開催する形になっています。クラブ協議会の出席対象となっている方にも近いうちにお知らせがいきますので、ぜひ参加いただきたいと思います。もし、委員長がご参加いただけない場合は副委員長等のご参加をお願いいたします。

○これまで感染流行地域への渡航もしくは仕事に関しては10日間程度の例会参加の自粛をお願いしておりました。幸い現時点では非常

事態宣言も蔓延防止等措置もありませんので、そういった制限は当会でも設けないので参加に対する制限に関しては、現在は10日間ルール特になく参加いただけることになっています。とはいっても時代の流れですのでこのような開催形式は続けながらオンラインで参加できる方はオンラインでという形での開催を当面1か月くらいは続けることになりました。

皆様ご協力のほどよろしく申し上げます。○食事の準備の都合上、出席確認に関してはより厳密に正確に事前に把握していきたいと思っております。もし急な予定の変更や参加できない、もしくは参加したいという希望に関しては本当に早めに事務局にご連絡ください。

委員会報告

親睦会場委員会

廣岡徹也委員



○ニコニコボックスの報告

・誕生祝 植草 務・小林幹夫・福島哲男・橋本昭一・廣田 茂 正部家光彦さん

・奥様誕生日 妻神和憲さん

・結婚記念日 正部家光彦・鶴飼寿栄 紺野 広さん

広瀬知明さん 「ロータリーの友」の紹介は9月号が永澤さん10月号は広瀬が担当します。

道尻誠助・中村稔彦・赤澤栄治
山村和芳・山本 仁・廣岡徹也 } ニコニコ
橋本八右衛門・小井田和哉さん } デー

○ロータリー財団委員会 石橋敏文委員長

ロータリー財団の地区目標は1人150ドル、ポリオは30ドルです。今回は地区のポリオプラス対策委員会より特にお願いがきていますのでお知らせとお願いいたします。目標額より少額でも構いませんので全会員の皆様のご寄付をお願いしたいと思っています。



ロータリーの友委員会担当例会



9月号紹介 永澤 信さん
横組みP7 リテラシーがもたらすもの

“リテラシー”は言葉を知っている、文章を書ける、読めるといったものをそもそも意味していたようですが、最近は何となく広義にとらえるようになって、例えば記号やいろいろなマークを理解している、あるいは金融リテラシー、デジタルリテラシーなど、金融やデジタルについて理解し、対応できるという意味合いで“リテラシー”ということばが使われているようです。

P8 東京王子ロータリークラブの前年度会長の石川さんという女性会長の記事が載っています。これは何のリテラシーかといいますと、SDGSのさらには幼稚園児のリテラシーを高めようという取り組みのようです。幼稚園児が描いた絵を使ってSDGSが学べる本を作った。そんな記事です。その目的はやはり未来を担う子どもたちに正しい世界にわたる知識を身に付けたい。多分親御さんがその絵本を読んでくれると思いますので、親子で一緒にSDGSを学んで欲しいという仕立てで、このような取り組みをしたということが書かれています。

この冊子には書かれていませんでしたが、netに載っているかと思って調べてみたら、5,000部ほどこういった絵本を発行して、東京都北区の幼稚園に配った。あとは台湾に姉妹クラブがあって25年ほどお付き合いがあるので、台湾語に翻訳した絵本を2,200部配った。さらにはSDGSの所管の外務省と連携しながらこういった取り組みを進めているという記事がnetに載っていました。

P10 「ヘルプマークを地域の絆にリテラシー向上でみんなに優しい社会をつくるプロジェクト」岡山南ロータリークラブの活動。

ヘルプマークはあまり認識していませんでしたし、あまり見たことがなかったのですが、P11にヘルプマークが載っています。介助や

支援が必要な人が手助けバックなどに付けているようなものです。前任地の千葉県銚子市でもあまり見かけておらず、八戸に来てはまだ見かけたことがないのですが、いろいろな障害を持たれた方、介助が必要な方向けのマークがあり、それがP12～P13に載っています。

多分左上は国際シンボルマークなのでご存じかと思いますが、全然知らなかったというものが4、5つありました。勉強不足、リテラシーが低いと思った次第です。そもそもこういうものがあってもやはり知識がなければよい社会につながらないのではないかということで、このリテラシーは締められています。

縦書きP4 「社会力育てが人類社会を救う」

随分壮大なテーマだと思って、最初興味を惹かれてこのページを紹介したいとご報告しましたが、きのうじっくり読んでみたら、これは筑波大学名誉教授が第2800地区のIMでご披露した講演の内容でした。4回ほど読みましたがなかなか理解できない。失敗したなと思いましたが、ご紹介させていただきます。

「社会力育てが人類社会を救う」ということで冒頭、最近の若者は…というところから入っています。門脇さんという教授が懸念しているのはやはり若者の社会力、社会性が下がってきているのではないかとということと、脳の仕組み、自分自身、自己中心的な人間が多くなってきているのではないかとということをおっしゃっています。

そもそもこの“社会力”とは何かといいますが、門脇さんという教授が創った造語のようで、「社会を創り、その社会を運営しつつ絶えず創り変えていくために必要な資質や能力」と定義づけしているようです。さらに変えるための行動力も含むという話をされておりました。ようは今そういった若い人材が少なくなってきているというようなお話です。

一方で社会力は日本にはあったはずなのにお話をされていました。“他人”と書いて

“ひと”と呼びます。例えば「人の振り見て我が振り直せ」という言葉があったり、“他人”と書いて“ひと”と読む言葉は40~50くらい日本にはある。そもそも日本人は他人の存在を意識しながら生きている人種だったのに、最近はどうも違うんじゃないの、というお話でした。

現在社会においては他者がすっぽり喪失し、自分以外の誰かに対する意識、存在を意識していないようになってしまった。自分以外の他人の人に関心が無い。つまり「他の人の存在が抜けた世界」ではなかなか社会をよくしようという人材が育たないのではないかというお話です。

途中で、世界に目を向けてみると、今世界の人口は90億人になるのではと言われるほど人口が爆発したり、資源が枯渇したり、食糧不足あるいは分断の社会。アメリカは大統領が変わりましたが、アメリカファーストあるいはイギリスのEU離脱みたいな、世界も自分たちさえよければいいんじゃないかという風潮もありますとも言っています。

ではどうすれば持続可能な社会が実現するのか。国連で提唱されているSDGS。先ほどSDGSの話がありましたが、門脇先生はそもそも“持続”と“開発”って実は矛盾しているのではないかという見解でした。持続可能な発展というのはありえない。つまり発展を求める限り一流社会は持続しえない。だから発展にこだわる経済成長は止めなければならない。ではどうしたらいいの？ 互惠の共同社会を実現することでしか解決できない。そのためには社会力の強い子どもたちを作らなければいけない。その例として国連でスピーチしたスウェーデンの当時高校生だったグレッタさん、ああいった人材を作るにはどうしたらいいか。

ではどうしたら社会力が育つのか。ポイントは基本的教育である。9月はロータリーの基本的教育月間ですが、そういったことばで表していました。子どもはやはり生まれながらに人に係わる、応答するのに必要な高い能力を備えている。

つまり人は元々社会力をもって生まれてきているのだから、特に2歳から3歳くらいまではそういったさまざまな人と接するような経験をすることによって社会力が強く人間が育つのではないかというお話でした。

なかなか壮大すぎてうまく説明できませんでしたが、わたし個人的にはこれからの世の中はどうあるべきかというのを改めて考えさせられた記事だったと思いました。お時間があるときにお目を通していただければと思います。

それ以外には「ごみ拾いはスポーツだ」という記事、「オンラインの親睦例会で台湾に親睦旅行に行った」という記事もありましたので、ぜひ9月号をご一読いただければと思います。



10月号紹介：広瀬知明さん

ロータリー月間の10月は“地域社会の経済発展月間” “米山月間” “ロータリー学友参加推進週間”です。

地域社会の経済発展月間ということは知らなくて、最初この特集を見た時になんだこれは？ と思って、興味深く読んだわけです。「千代女が照らすこの町の未来」

可愛いアニメは加賀の千代女だそうです。この方は江戸時代の方なので、このイラストは今イメージで作っただけの話です。報告をしているのは白山ロータリークラブで、石川県金沢市の南西に隣接する白山市のロータリークラブです。今から10年くらい前に創立50周年を記念して何か社会貢献活動をやりたいということで、地元金城短大という短期大学があって、そこのデザイン科の生徒と一緒に何か地域貢献をしようということで考えたのは「千代女」だそうです。

千代女の有名な句をご紹介します。「朝顔に釣る瓶とられてもらい水」その句を作った江戸時代ではけっこう有名な女流俳人です。白山の生まれなので、千代女をキーワードにしていろんな物品や食品、工芸、文学などいろんなものでこれから盛り上げていこうとい

うことでプロジェクトが始まりました。すべてこれは金城短大とロータリーと組んでやりました。プロジェクトはだいたい3年一期で、今は三期目に入っています。

まず一期目で彼らが何をしたか。加賀の千代女はどういう方なんだろうというのを勉強した。当然ながら俳句教室も開きました。金城短大の学生と一緒に商品、工芸、絵画、マンガなどを作ってアートショップを開いて展示した。この時に「千代女プロジェクト」の「マップング」というのを地元のお寺でやったそうです。最近プロジェクトマップングは流行っていますが、けっこう早い段階からそれに目を付けてお寺でやった。

第二期は2017年～2019年。いろいろやったのですが、やはりまだ千代女が市民のところに上手く落ちていけないので、彼らが考えたのがイラストです。千代女をキャラクターにしようということで、千代女をキャラクターとしてPRすることに目標を変えました。「千代女キャラクターコンテスト」を毎年開いて、自分の思い描いた千代女のイラストを応募して、その中から優秀作品を選んでいくことにした。

このかわいいイラストはその中の受賞作品ということです。

P10 ただキャラクターを作って終わりではなく、クリアファイルにいろんな千代女のイラストをつけて子どもたちに配った。本来は著作権があるのですが、ロータリークラブが著作権をもっている商品などに使っているというように活用している。

第三期目は2020年～2023年のプロジェクトはこのキャラクターを使って商品開発をしようという段階に入っています。白山市が発行するSDGSのパフレットにそのデザインを使ったり。朔日町に金沢のゴーゴーカレーの店ができましたが、そのカレー店とも連携して「千代女ゴーシチゴーカレー」という商品を作って販売しています。

通常ロータリーの活動というと、例えば1年で終わったり、3年で終わったりですが、ここは本当に気の長いちょうど8年目を迎え

ます。地元の大学と共同してこういうテーマを見つけてやるのも1つの方法なのかなと思っています。

八戸で誰か女性のキャラクターがいるのかと考えたときに、思い浮かぶ人がいません。

「鶴姫」鳥津藩から婿入りしたお殿様の正室ですが、焼酎が行っててお住まいになったのか？いずれにしろこういうキャラクター作りも地域貢献になるのかなと勉強しました。

P12 10月は米山月間です。米山だより。ロータリーの友1998年12月に載ったものです。「山月記の虎」書かれたのは韓国からの留学生のキムイクスさんです。山月記は中島敦が書いた小説ですが、わたしは読んでいません。内容は詩人として相当な才能を申し受けた主人公がその才能におぼれてしまって努力をせずに回りに抜かれてしまった。人を憎み続けて、結局は虎になってしまったという話です。

この本を読んだキムさんは「生まれつきの才能に恵まれなくても、広く学んで努力して自分の可能性を最大限に生かす人、そうした人がこの社会でもっとも立派な資産だとわたしは思う。」と言っています。「一見平凡な人間が実は今の社会ではもっとも非凡な才人なのである。」

ちょっと若い発想でもあるかと思いますが、実はそこからキムさんは世界に視点を飛ばします。なるほどな、とわたしは感銘を受けましたが、「世界は例えばナポレオン、徳川家康など大きな業績を残した偉人が築いたものではない。誰も知らないところでお互いに助け合いながら、しかし草を噛み、大地を踏みしめて生きてきたたくさんの平凡な人間たちが作り上げてきたものだ。」ここはわたしもまったく同感です。キムさんは山月記の虎から、虎にならずに自分は努力を続けていこうというふうにここで締めくくっています。

この方は今どうしているでしょう。実はこの方は今、信州大学の教授としてご活躍されています。この方は世界で初めて超極細繊維ナノのファイバーの量産化に成功した方です。この人は関連特許200件、研究論文350件と本

当に世界のトップランナーです。こういう方が日本に残って研究をしていただいているのはすごくありがたいと思います。

ではこの方はそれから20数年経ってどうなのか。「もっとも平凡なことが真の非凡である」という考え方は変わらない。ただ今の社会のために自分ができることは何かを尾辻は重要に考えていたが、今は「自分をもっとも力を発揮できることは何か」を常に考えていると、ちょっと考えが変わったそうです。

つまり自分の得意分野でこの世の中に貢献しようという考えのようです。20数年前に書いた世界の話がありましたが、今彼の研究室には日本人の学生が12人、外国人留学生在が13人いて、そこは“小さな地球”になっている。そこでキムさんはこれから未来に羽ばたく新たな“平凡な人間”を育てたいというふうに締めくくっています。もしかしたらノーベル賞かなにか取るのではと感銘を受けました。

縦書き「この人を訪ねて」 各ロータリークラブの有名な、話題性のあるロータリアンを取材して歩くコーナーです。

今回は前橋ロータリークラブの遠山昌子さんが紹介されています。「夢の宝塚を退団してカリカリ梅の後継者に」

カリカリ梅は一度は口にしていると思いますが、そのカリカリ梅を作っている赤城フーズの6代目社長です。まだ42歳です。この方の特集です。

赤城フーズ本社への入り口に行くと遠山さんの等身大写真パネルと宝塚時代の略歴があるそうです。この方は自分が小学生の時に正月にテレビで真矢みきのベルサイユのばらを見て感動し、東京に出て今度は天海祐希さんのベルサイユのばらを見て、これは行くしかない。

宝塚に行きたいと親に言ったら、前橋でも偏差値の高い前橋女子高校に合格したら行っていいよと言われたので、猛勉強してそこに合格した。そこから毎年宝塚音楽学校の試験を受けるのですが、試験を受けるために群馬

から東京まで学校の授業が終わってから毎日のように通って、音楽スクールで受験勉強した。宝塚は4回チャレンジできるのですが、高校3年生のときに最後のチャンスでようやく受かって宝塚に行った。その中でもいろいろ訓練を積んで、成績もどんどん上がっていった。最初は踊りも下手だったそうですが、最後には同期で8番目くらいの成績。

そうこうしているうちに、この方のお爺さん、先々代の社長の血管が膨らんで、いつ死んでもわからない雰囲気になった。遠山さんの兄弟は男2人、女2人で、男2人はすでに別の道に行っていて家業を継ぐつもりはなかった。昌子さんは昔から親しんだ赤城フーズが無くなるのは嫌だということで、25歳で退団して赤城フーズに入社する決断をしました。

当然来たばかりの頃はお嬢ちゃま扱いで、何経営ごっこしているの？くらいの雰囲気でも陰口を言われていたそうですが、通信制で大学の経営学を学んでその後、群馬中小企業家同友会に入って、いろんな異業種の方々と交流して経営者としての力をつけていった。

最近彼女が新商品を開発したのが「熱中カリカリ梅」。暑い時に食べるカリカリ梅です。また元タカラジェンヌということで「タカラジェンヌ」という甘いカリカリ梅を作り、これは宝塚歌劇団の劇場で売っているそうです。けっこう人気があるようです。

この方は2013年に前橋ロータリークラブに入って、今は親睦委員長をされています。クラブの合唱サークルにも参加していて、ロータリーのバンドのボーカルをされています。この方は身長168cm、娘さんが2人で、一人は小6で160cm、もう一人は小3です。すでに150cmなので、恐らく170cmは超えるのではないかなと思います。2人のお子さんはファッションデザイナーになりたいといっているようですが、いずれ、たぶんどちらかが会社を引き継ぐのではないかなと思っています。